

第 11 回全国障害者生活支援研究セミナー

リフォーム!! 地域生活支援

—この機を活かす—

- | | |
|----------|--------|
| ● 開催要項 | P 1- 9 |
| ● 参加申込用紙 | P 10 |

日 時 : 2010年1月30日(土) ~ 1月31日(日)

会 場 : 新宿NSビル NSスカイカンファレンス(30F)

東京都新宿区西新宿2-4-1

新宿ワシントンホテル新館 東京都新宿区西新宿3-2-9

主催 : 特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会(サポート研)

ホームページ : <http://support.ryoiku-c.com/>

<全国障害者生活支援研究会(サポート研)事務局>

〒210-0848

神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608

TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp

担当 村尾・加藤

第 11 回全国障害者生活支援研究セミナー開催要項

リフォーム!! 地域生活支援 –この機を活かす–

●開催要項

政権交代により様々な施策が見直されています。新たな「政治」がどういう状況を生み出すのか、私達福祉関係者もしっかり見ていかねばなりません。連立政権では「障害者自立支援法は廃止し、『制度の谷間』がなく、利用者の応能負担を基本とする総合的な制度をつくる（9月9日の政策合意より）」となっています。しかし具体的な課題を思い浮かべると期待とともに不安も生じます。良い方向へ向かうためには私たち現場からの積極的な発信が求められているのではないのでしょうか。

さて、このような情勢の中であっても、障害のある方々の生活は変わらずに続いています。私たちの支援も立ち止まるわけにはいきません。そして障害者自立支援法に振り回された頃と同じことを繰り返すわけにはいきません。支援は障害当事者のものであり、支援者は今こそ地に足をつけたきちんとした支援理論を構築し、明確な方向性を持って訴える時期であると考えます。サポート研は従来「本人中心の支援」と「どんなに障害が重くても地域で自分らしく生き生きと暮らせる支援（地域支援）」を訴え、追究してきました。だからこそ、この時期にもう一度原点に立ち返り、この機を活かして、制度やあり方をリフォーム（作り直す）することが必要だと思えます。

今回は基調講演として中京大学の鯨岡峻先生にお話しいただきます。「共にある」ためには一方的な関係性ではなく、当事者と支援者の相互が主体的であるようなあり方が前提となります。支援の場で私たちが直面する根本的な問題に視点をあてこれからの新たな取り組みの契機にしたいと思えます。同時に、社会的な諸関係において、多様なあり方を認め合うような関係性の構築を展望するときの課題ともなるものです。2日間を通じて大いに学び、考え、ディスカッションできるような企画を用意いたしました。大勢のご参加をお待ちしています。

○主 催

特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会（サポート研）

○協 賛

財団法人日本知的障害者福祉協会 日中活動支援部会

○後 援（予定）

財団法人日本知的障害者福祉協会／日本障害者協議会／社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会／社会福祉法人東京都社会福祉協議会／東京都障害者通所活動施設職員研修会／特定非営利活動法人DPI日本会議／全国社会就労センター協議会／社団法人全国肢体不自由児・者父母の会連合会／特定非営利活動法人全国精神保健福祉会連合会／財団法人日本障害者リハビリテーション協会／社団法人日本てんかん協会／社団法人日本自閉症協会／特定非営利活動法人全国精神障害者地域支援生活支援協議会／全国自立生活センター協議会／社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会／きょうされん

○参加者

障害者の生活支援にかかわる支援者の方 障害当事者とご家族の方 テーマに関心のある方
(手話通訳など何らかのサポートが必要な方は、申込み先までご連絡ください)

○募集定員

300名

分科会	第1	第2	第3	第4	第5	第6
定員	36名	72名	54名	36名	72名	54名

○参加費（参加費・資料代）

【両日とも参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円 その他 12,000円(学生 6,000円) 懇親会費別途 6,000円
【1日のみ参加】正会員 6,000円 情報会員 6,500円 その他 7,000円(学生 3,500円) 懇親会費別途 6,000円

○申込締切

2010年1月8日(金)。各委員会が定員になり次第締め切ります。総定員300名。

○申込受付

参加申し込みは別添申込用紙にて、京王観光調布支店まで郵送またはFAXにてご送付下さい。

申し込み 問合せ先	京王観光 調布支店 (担当: 大野) 〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階 TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 E-mail t.ono@keio-kanko.co.jp
--------------	---

○日 程・会 場・内 容

◎1日目 2010年1月30日(土)

9:30~10:00	10:00~10:15	10:15~12:00	13:00~16:30	16:30~17:00	18:00~20:00
受 付	挨拶	基調講演	実践報告	情勢報告	懇親会
新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B(30F)					ルーム3

●全体会 (10:00~17:00)

◇会場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B(30F)

東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755

(29F・30F専用シースルーエレベーターにて30Fへお越しください。他のエレベーターは不可。)

◆開会挨拶 (10:00~10:15)

赤塚 光子(当会会長)

◆基調講演 (10:15~12:00)

「主体を支える ~人が人をわかるということ~」

鯨岡 峻(中京大学心理学部教授)

◆実践報告 (13:00~16:30)

「暮らしを支える」

- ご本人からの発言
 - 朝比奈 ミカ(中核地域生活支援センターがじゅまる・千葉)
 - 稲木 俊夫(湘南の風・神奈川)
- 進行・課題整理 山田隆史(杉並区役所・東京)

◆情勢報告 (16:30~17:00)

柴田 洋弥(日の出福祉園・東京/当会会員)

●懇親会 (18:00~20:00)

◇会場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ルーム3(30F)

◎2日目 2010年1月31日(日)

9:00~9:30	9:30~12:00	13:00~15:30
受付	分科会	分科会
新宿ワシントンホテル新館3階・4階		

●分科会（9:30～15:30）

◇会場	新宿ワシントンホテル新館	東京都新宿区西新宿3-2-9
分科会1	高尾2（3階）	
分科会2	菊（3階）	
分科会3	高尾1（3階）	
分科会4	丹沢2（4階）	
分科会5	桜（4階）	
分科会6	丹沢1（4階）	

※内容につきましては、後掲「各研究委員会のテーマ及び要旨」をご覧ください。

※分科会は上記委員会の中から、いずれか一つをお選び下さい。

※会場は変更になる場合がございます。その際は、当日までにご案内いたしますのでご了承ください。

○セミナー事務局

＜全国障害者生活支援研究会（サポート研）事務局＞

〒210 - 0848

神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608

TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp

担当 村尾・加藤

○会場アクセス

新宿NSビル／新宿ワシントンホテル新館

JR線・京王線・小田急線・東京メトロ丸の内線
都営地下鉄線（新宿線）・京王新線
都営地下鉄線（大江戸線）

新宿駅 「南口・西口」より徒歩7～8分
新宿駅 「新都心口」より徒歩約6～7分
都庁前駅 A3出口 より徒歩約3～5分

○会場周辺案内図



※ JR新宿駅南口より地下道ワンダーストリートを使いますと雨に濡れずにお越しになれます。

分科会 1 本人の思いを聴く

◆ 本人の声 を聴く

措置制度、支援費から障害者自立支援法、そして、またその廃止後の行方と、障害のある方を取り巻く環境は大きく変化しています。障害当事者はこうした変化のたびごとに翻弄されてきました。それだからこそ、支援を行う私たちにはどんなに制度が変わろうとも、本人の思いを大切に、本人に寄り添う姿勢が問われます。障害の重さに関係なく、その思いをどう汲み取るのかという事が、益々重要になってくると思います。

当研究委員会ではこれまで、本人を中心とした個別支援計画のあり方、自立とは何かを考え、支援する側の姿勢を検証してきました。その中で、支援する側の良かれと思う事が、支援を求める側のご本人の思いに本当に一致しているのかという疑問も見えてきました。

そこで、支援を受けている当事者から自分の生活や支援についてどう思っているのか聞き取りを行い、さまざまな思いがあることを学び、改めて、本人の思いを聴くということの大切さを感じてきました。それと共に、私たちの聴く姿勢、聞き方も見直したいと考えます。

また、ご本人に聴く中で、自分史、夢、希望、支援してほしい事が話されると思います。まずは、言葉をそのままに受けとめ、その言葉の裏にある思いを今回のセミナーで一緒に検証していきましょう。

9:30～ 9:40 趣旨説明

9:40～11:15 講演 「本人の思いを聴くということ」

西原 雄次郎（ルーテル学院大教授、社会福祉法人おおぞら会理事長、知的障害者施設オンブズマン）

11:15～12:30 障害当事者の話

12:30～13:30 休憩

13:30～15:25 グループ討議

本人の思いを中心とした支援のあり方、どう聞き、どう活かすかについて意見交換を行います。

15:30 終了

分科会 2 生き難さへの支援

◆ 依存と自立支援 ～障害者支援に潜む「共依存的」関係性～

昨年まで「地域生活支援」を研究テーマとして活動してきた第2研究委員会ですが、今年からは装いも新たに「生き難さへの支援研究会」として研究セミナーを企画することとしました。

私たちは数年前より、いわゆる社会的に認知された「障害者」（手帳所持者）ではなくとも、知的なハンディを有しつつ「生き難さ」を抱えながら生活することを余儀なくされている方々（受刑者や刑余者への支援、あるいはホームレス支援の中にある「障害者」）への「支援」が今どんな状況であるかということの研究活動を通じて皆さんに訴えかけてきました。

しかしながら、私たちの研究活動をさらに先に進めるためには、社会状況の把握と最新情報の共有のみにとどまらず、自らが日々行っている障害者支援が、真に有効な支援として「障害者の生き難さ」に届いているのか、ということについて、目の前にいる彼らとの関わりを軸足にしつつ、「障害者」が置かれている社会的な位置づけや、支援者と被支援者の間にある社会的な関係性を探る視点から検討することが必要であると考えています。

こうした問題意識から、私たちは、支援する側と支援される側、例えば献身的にケアを行っている「施設職員」と、行動障害やこだわり行動にとらわれている（生き難さを抱えている）「障害者」の間に横たわる関係性を、「共依存」

的な関係性という視点で捉えなおすことができないか、と考えました。それは、支援者が社会的な役割として行っている障害者への支援・ケアが、実は被支援者の困難な行動や状況を強化していることはないだろうか？という視点の提起でもあります。

今回のセミナーではまず「共依存」とは何かについて皆さんと共通理解を持った上で語り合えるように、午前中に依存症や共依存に対する基本的な理解を深めるための講演をいただきます。その上で、支援者と被支援者の間の「共依存的」な関係について参加者の皆さんとともに考え合い、彼らの生き難さの根底にある“隠れた要素”としての共依存の存在について、さらに「ほんとうの自立支援とは」という私たちの仕事の根っこに関わるテーマに向き合うセミナーにしたいと思っております。

9:30～ 趣旨説明

10:00～ 講演『「共依存的」な関係性と障害者支援』

講師：岩崎 正人（精神科医・岩崎メンタルクリニック院長）

長年にわたりアルコール依存症など嗜癖問題に関する相談と治療に携わる。著書「嗜癖の時代 現代人を蝕む心の病」（集英社）「今の私は仮の姿 平成パチンコ症候群」（集英社）ほか

12:00～ 昼食休憩

13:00～ フリートークセッション 「つかずーはなれずーささえるキョリ感」

話者：（調整中）

助言者：岩崎正人

・参加者のみなさんとのフリーなやりとりの中でテーマに対する議論を深めます

15:30 終了

分科会3 エピソード記述

◆「支援の原点を求めて～本人と支援者がお互いに響き合うために～」

措置から契約へ、という流れの中で、支援者観にかなり大きな揺らぎが生じています。「指導・訓練」から「お客様は神様です」という立場に到るまで、大げさにいえば、支援者のアイデンティティーが揺らいでいます。そのような状況の中で我々は、利用者を無理やり動かしたり、反対にこびを売ったりするのではなく、利用者の自己決定を大切に、対等な関係をベースに、利用者を主体として受け止めていく、そういった支援者観なり、利用者－支援者の関係を模索してきました。我々の立場からすると、利用者を主体として受け止めるためには、支援者の側にも主体性が必要であり、そうであって初めて、おつきの人や黒子ではなく、人同士の温かい関係をベースに、相手の立場に立って利用者への支援を行うことができるのです。

利用者と支援者との関係は一方が一方より強い、という力関係であってはなりません。利用者が主体的になっていく過程を支えることが、我々支援者の喜びであり、この職業についてよかったという自信に繋がっていくことが大切であり、このことは対等な信頼できる関係をベースにしたのみ可能です。しかし、この相互主体的なあり方は、指導・訓練やおつきの人、黒子よりももっと高度な専門性を必要とします。なぜなら指導員にしてもおつきの人にしても、上下関係がはっきりしているため、どう行動するかは上位者の価値観に合わせれば決まる問題です。一方、対等な関係に基づいた支援の場合、私がかかわったことの影響が本当に利用者にとってよかったのかどうか、本当に信頼できる関係を築けているのかどうか、利用者の「思い」を本当に受け止められたのかどうか、などの判断を利用者－支援者二人の関係をベースに共同でしていかなければならないからです。こちらが「よし」としたことが必ずしも利用者にとって「いいこと」であるとは限りません。

このような問題に対して解決の方法を示してくれるのが、鯨岡峻氏が提唱している「エピソード記述の方法」だと考えます。これまでの記録法とは異なり、利用者や支援者の思いをエピソードに綴り、それを読み合わせることによって、その時の人間関係やストーリーの流れが、目に浮かぶように広がっていく。その時の利用者や支援者が抱いていた思いをグループで追体験していくことによって、その感情の持ち方、自己表現のあり方を味わい、一緒に検討

していくことができるのです。本人や支援者の「思い」に焦点を当て、グループで検討する、このことが支援者の主体性を育てていくためには非常に有効な手段であるように思われます。

一昨年、昨年に続いて3回目になりますが、この方法を広めると同時に、問題点の検討をしていければと思っています。是非ご参加ください。

- 9:30～ 9:40 趣旨説明
9:40～11:40 講演 鯨岡 峻（中京大学）
「支援の原点を求めて～本人と支援者がお互いに響き合うために～」
11:40～12:00 討議
13:00～15:20 エピソード研修
15:20～15:30 エピソード研究会の今後についての話し合い

分科会4 日中活動支援

◆ 日中活動のあり方を考える ～ひとりひとりの思いを大切にしたい日中活動とは？～

障害者自立支援法が施行されて以来、制度についてはたくさんの議論がなされてきました。しかし、利用者一人ひとりに向き合う現場で行われているさまざまな「活動」や「支援」の内容については、「生産的活動」や「創作的活動」などと記載されているのみで、実際に何が行なわれなければならないということは具体的には決められていません。捉え方によっては「自由な発想」で「自由に様々なことができる」とも考えられますが、実際には、「お預かりサービス」的になってしまっている部分もあるのではないのでしょうか？これらの内容の違いは、利用する方にとっては大変大きな影響があると考えられます。

本来は制度が変わったからといって利用者への支援の内容が変わるということではなく、「利用者の希望」に応じて、「必要な支援」は行われなければならないと思います。そこで、利用者一人ひとりの「思い」や「可能性」に着目し、「必要な支援」を提供している取り組みや、変わることのない「支援への考え方・信念・理念」を持った実践にスポットライトを当て、改めて学習することで、利用者の「人生において活動が持つ意味」や、「活動から見えてくる支援の大切さ」を考えたいと思います。

今回は二つの事業所の取り組みの発表をお願いします。

まず青葉園は、兵庫県西宮市で長らく法外施設として市の補助金で運営されてきました。法律に縛られず、「利用者の自立」と「地域生活」、「自己決定に基づく自分らしい暮らし」を基本として活動を組み立て、青葉園が「地域での拠点」となって、地域を巻き込んだ運営を行ってきました。現在は経営面では新体系に移行しましたが、支援や活動は従来から変わらない姿勢で継続しています。今までの経緯やその考え方から「支援の本質」を学びたいと思います。

TAKEは、埼玉県越谷市で日中活動支援と地域支援を行っているNPO法人です。重度の知的障害児者が通う「デイケアホーム」は埼玉県の制度を利用していますが、新体系への移行を実施する予定です。現在は理事長自らが先頭に立って、「日中活動の見直し」に奮闘しているとのこと。その経緯とどのような見直しを行っているのかについてお話を伺い、勉強したいと思います。

午後はこれらの実践発表から見えてくる日中活動のあり方について、「一人ひとりの思いを大切にしたい日中活動支援について語ろう」というテーマの下、発表者・参加者とともに考えていこうと思います。積極的な意見交換ができる会にしたいと思います。是非ご参加下さい。

- 9:30 開会 趣旨説明
坂田 晴弘（国分寺市障害者センター・東京/当会副会長）

- 9:45 実践発表①「青葉園の実践から学ぶ」
岩宮 冬樹ほか（青葉園・兵庫）
- 11:00 休 憩
- 11:15 実践発表②「TAKEの実践から学ぶ」
太田 元治（TAKE・埼玉）
- 12:30 休 憩
- 13:30 ディスカッション
「一人ひとりの思いを大切にした日中活動支援について語ろう」
コーディネーター 江澤 嘉男（は〜とピア・東京）
発表者・参加者を交えて
- 15:30 終了

分科会5 政策論

◆ 根っこから変えよう！～新たな障害福祉制度の展望を現場からの発信で～

政権交代後、長妻厚労大臣は障害者自立支援法廃止を明言しました。そして与党（民主党）は「障がい者総合福祉法（仮称）」の制定に向けて、「障がい者制度改革推進本部」の設置を準備しています。

この間、障害者自立支援法によって、私たちの現場はどのような課題を背負ってきたでしょうか。今一度、障害者自立支援法の総括を行いながら、新たな制度に何を盛り込んでいくのか私たち現場からの発信が求められています。パーソナルアシスタンス制度をどう実体化するのか、就労か介護かという二分化に対する制度提案は、障害程度区分によらない支給決定の方法は、施設からの地域移行を真に進行するには等々多くの課題をどうしていくのか、前回のセミナーでもお呼びした石毛鏡子氏（民主党衆議院議員）と当事者の立場で問題提起してきた尾上浩二氏（DPI日本会議事務局長）を交えた討論を行いたいと思います。

またとない、いい機会です。制度の手直しというレベルでなく、原点にかえって、どういう制度を創っていくのかと頭を切り替えた論議ができればと思っています。また、2010年度の当面の手直しの情報も得られることかと思えます。

多くの皆さんの参加をお待ちしています。

- 9:30～12:00 司会 明石 洋子（あおぞら共生会・神奈川）
石毛鏡子氏「民主党政権がめざすこれからの障害者福祉～『障がい者総合福祉法』の基本的な考え方」
尾上浩二氏「障害者自立支援法廃止と新法制定への道筋の創り方と課題」

- 13:00～15:30 司会 藤内 昌信（だれもがともに小平ネットワーク・東京）
<現場からの発信>

- 発信者 山西 孝（白樺園・山梨）
中西 昌哉（ベテスタの家・京都）
清水 明彦（のまねっと西宮・兵庫）
明石 洋子（あおぞら共生会・神奈川）
- 論点整理 柴田 洋哉（日の出福祉園・東京）
石毛氏・尾上氏を交えた全体での討論

分科会 6 行動障害

◆ 特別企画！「みんなで語る 支援、基本のキ」

私たち行動障害研究グループは今後、「行動障害」の理解や支援のあり方について研究を行います。しかし、その前にもう一度、「支援に必要な基本的な知識」について考えてみたいと思います。

福祉の仕事に就き支援をしていくとたくさんのケースに向き合います。難しいケースにぶつかると、その支援の答えを求めて、職員間で検討する、研修に参加する、参考文献を読む、と言いうようになんとかその状況を打開しよう、良くしようと考えていくと思います。しかし、ここで必ず壁にぶつかります。私自身もそうでしたが、「今、目の前で起きている状況（激しい自傷や他害など）をなんとかやめてもらうにはどうしたらよいか？どうやって止めればよいか？」と、その場の対処方法のことばかりに考えがいきます。

では、なぜそのような考え方になってしまうのでしょうか？その原因を福祉の仕事のスタート時に遡って考えてみます。利用者個人の支援の事は教えてもらったのだけど、「支援の基本」を教わった方はどのくらいいるのでしょうか？また、「新人職員に何を教えたらよいかかわからない」という中堅職員の方も多くいるのではないのでしょうか？支援の土台となる考え方を持っていないと、どうしても「その場の対処方法」を求めてしまいます。そこで、今回は、新人職員研修のような形になりますが、もう一度「支援の土台や基本的な知識」に立ち返ってみたいと思います。そこから出発することが、今後「行動障害」という難しい状況に陥ってしまった方への支援を考えていく時に欠かせない重要な要素となると思います。

今回は、特に 20 代～30 代半ばの職員や職歴の短い方を対象にした内容を考えています。

9:30～12:00

行動障害を示すひとの理解や支援について経験をもつ、岩崎隆彦（淡路こども園・大阪）による「支援の基本」について講演を行う。（1 時間程度）

次に、児童、通所、入所、ヘルパーで活躍中の 20 代～30 代の職員に自分の考えや悩み・疑問を話してもらう。その後、岩崎さんにコメントをもらい、参加者が支援のあり方を考える視点を持てる機会にする（午後のディスカッションで各参加者が深められるように）。

12:00～13:00 昼食

13:00～15:30

年代、仕事歴でグループ分けをしてディスカッションを行います。
まとめとして、赤塚光子会長に成果と課題を整理していただく。

第11回 全国障害者生活支援研究セミナー

セミナー・懇親会参加及び宿泊申し込みのご案内

会議の参加及び宿泊の申し込みは、京王観光株調布支店が代行させていただきます。
お申し込みは別紙申込書で郵送又はFAXにてお願い致します。

- ★ セミナー日程 2010年1月30日(土)～1月31日(日)
- ★ セミナー会場 1月30日(土) 新宿NSビル スカイカンファレンス ホールA・B
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル TEL 03-3342-3755
1月31日(日) 新宿ワシントンホテル新館 会議室(3～4階)
東京都新宿区西新宿3-2-9 TEL 03-3343-3111
- ★ 参加費 【両日参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円
一般 12,000円(学生6,000円)
【1日のみ】正会員 6,000円 情報会員 6,500円
一般 7,000円(学生3,500円)
- ★ 懇親会 費用 6,000円 場所:新宿NSビル スカイカンファレンス ルーム③
- ★ その他 遠方からのお越しで宿泊希望の方は宿泊手配を承ります。
2010年1月29日(金)～1月30日(土)を含む2泊

ご宿泊施設

新宿ワシントンホテル本館 (新宿駅西口駅徒歩約8分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約3分</small>	〒160-8336		TEL 03-3343-3111	
	東京都新宿区西新宿3-2-9		FAX 03-3342-2575	
	シングル	@12,000円	ツイン	@9,000円
京王プレッソイン新宿 (新宿駅西口徒歩約9分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約5分 *朝食は簡易朝食(パン・コーヒー・ジュース)になります</small>	〒160-0023		TEL 03-3348-0202	
	東京都新宿区西新宿3-4-5		FAX 03-3348-0203	
	シングル	@9,500円	ツイン	設定なし

ご宿泊取消料のご案内(宿泊日を基準とします)

取消日	30～15日前	14～08日前	07～04日前	03～02日前	前日	当日
取消料率	10%	15%	30%	50%	80%	100%

★ お申し込み方法

セミナー及び宿泊のお申し込みは、京王観光株調布支店あて別紙申込書で郵送又はFAXにて
1月8日(金)までにお申し込みください。参加受付後、参加書類及び費用振込み案内を
1月中旬頃送付させていただきます。

★ お問い合わせ先

〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階

KEIO 旅 京王観光 京王観光株調布支店

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当:大野

営業時間:月～金曜日 9:00～18:00(土・日・祝日はお休みです)

第 11 回 全国障害者生活支援研究セミナー申込書

申込日： 年 月 日

お申込締切日：2010年1月8日（金）必着

★ ご注意：申込書のコピーをお控えとしてお取下さい。

都道府県名		勤務先				
参加書類等 送付先	〒 ー					
			TEL	()	FAX	()
参加者氏名（ふりがなをふってください）		役職	区分	参加希望日	希望分科会	懇親会
ふりがな	男・女		正会員 情報会員 一般 学生	1月30日（1日目）のみ	1 · 2 · 3 4 · 5 · 6	参加 · 不参加
				1月31日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員 情報会員 一般 学生	1月30日（1日目）のみ	1 · 2 · 3 4 · 5 · 6	参加 · 不参加
				1月31日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員 情報会員 一般 学生	1月30日（1日目）のみ	1 · 2 · 3 4 · 5 · 6	参加 · 不参加
				1月31日（2日目）のみ		
				両日とも参加		

宿泊希望	宿 泊 日		希 望 ホ テ ル		部屋タイプ
有 無	1/29(金) (前泊)	1/30(土) (当日泊)	第一希望： 第二希望：		1・シングル 2・ツイン (どちらかに○印をお付け下さい)

★ 各ホテルの部屋数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい

★ 上記申込書に必要事項をご記入の上、下記あてに郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

お申し込み先 **KEIO 旅 京王観光** 京王観光(株)調布支店 〒182-0024 東京都調布市布田 3-1-7 池田ビル 5階

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当：大野

営業時間：月～金曜日 9：00～18：00（土・日・祝日はお休みです）